

機 巢

同窓会報メールマガジン

Vol. 8 冬号

岐阜工業高等専門学校 機械工学科

目 次

P-2, 3	目次 & 会長挨拶	中野 廣幸 (4 期生)
P-4	高専祭専門展と研修旅行	機械工学科 4 年担任 山田 実 (24 期生)
P-5	クラブ紹介 吹奏楽部	機械工学科 教授 加藤 浩三
P-6	若鮎会 50 周年記念事業に携わって	実行委員 太田 哲也 (6 期生)
P-7	31 期生合同同窓会の報告	堀口 英樹 (31 期生)
P-8	若鮎会 公開講座の報告	
	『11 月 18 日 講師 1 期生花村和男』	桑原 喜代和 (1 期生)
P-9	企業家卒業生インタビュー	
	(株) 森製作所 代表取締役 森栄三 (15 期生)	中尾 賢治 (15 期生)
P-10	編集後記	

会長挨拶

機楽会会長 中野 廣幸

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は機楽会および若鮎会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。お陰様で若鮎会設立 50 周年記念行事も成功裏に終了することができました。また、定期的な岐阜高専公開講座の開催、算数・数学甲子園への協力など、継続的な活動を開始することができました。

様々な岐阜高専あるいは同窓会の活動のお手伝いをする中で、昨年 12 月にベトナム中部土木大学からの代表団の通訳をする機会がありました。代表団の来校の目的はベトナムに高専制度を導入したいということであり、岐阜高専に協力を要請するものでした。既に独立行政法人国立高等専門学校機構の協力のもとモンゴルでは高専制度が導入されており、優秀な技術者の育成に大いに役立っています。ベトナムではほとんどすべての子供たちが義務教育を受けることができ、識字率も非常に高いとお聞きしました。しかし、義務教育を終えて上級学校へ進む学生が極端に少なく、それが国家の大きな問題になっているようです。ベトナムは、日本と異なり多民族国家ですので、山間部、遠隔地に住む部族の子供たちは、たとえ優秀であろうとも経済的な理由等から、なかなか上級学校へ進学することができないようです。そこで全寮制の高専を作って優秀な人材を育てることが、ベトナムの発展の大きな要となるというお話でした。

日本では人口減少が始まっており、減少する労働力の補完が真剣に考えられています。もしベトナムに高専が出来れば、優秀なベトナムの高専卒業生が日本にやってきて日本の経済発展に協力してくれることもあるでしょう。既に岐阜高専の卒業生は、世界に出て行って、世界中の人々のためにいろいろな仕事をしています。労働力の減少が懸念される日本に限らず、どこの国においても、その国が発展すればするほど、増々優秀な人材の不足は、深刻となります。機楽会におきましても、優秀な人材を育て上げるための岐阜高専の活動に、大いに協力して参りたいと思います。

ここで、定着してまいりました機楽会の継続的な活動を改めて紹介いたします。今後も皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

<2017 年の活動>

- ・2017 年 1 月 5 日メールマガジン Vol.4 冬号発行
- ・2017 年 4 月 27 日メールマガジン Vol.5 春号発行
- ・2017 年 5 月 20 日役員会
- ①若鮎会 50 周年記念行事、内容と進行状況



②機楽会 2016 年度の決算、2017 年の予算

- 2017 年 7 月 22 日幹事会
 - ① 若鮎会 50 周年記念行事について
- 2017 年 7 月 26 日メールマガジン Vol.6 夏号発行
- 2017 年 9 月 9 日 若鮎会設立 50 周年記念行事
- 2017 年 10 月 25 日メールマガジン Vol.7 秋号発行

I send my congratulations on the New Year respectfully.

Thank you indeed for your cooperation in the activity of Kisokai and the Wakaayukai during last year. We could celebrate the 50th anniversary of Wakaayukai successfully and have started continuous activities such as the Gifu Kosen open lecture and cooperation to the arithmetic and mathematics Koshien, etc.

While helping the activity of a variety of Gifu Kosen or alumni associations I had a chance to be an interpreter for the delegation from the Mientrung University of Civil Engineering, Vietnam last December. The purpose of the visit of the delegation was to introduce the Kosen education system to Vietnam, and they have request to Gifu Kosen's cooperation. The Kosen education system has already been introduced in Mongolia under the cooperation of the National Institute of Technology, Japan, and it works usefully to turn out excellent engineers. The literacy rate in Vietnam is very high because almost all children were able to receive the compulsory education. However, after finishing compulsory education, students, who advance to higher school, are extremely few, and it becomes a big problem of the nation. Vietnam is a multiethnic nation unlike Japan, children of the tribe, who lives in the mountainous district and the remote place, are not able to go to higher school easily from economical reasons etc. even though they are excellent. Establishing Kosen having all dormitory system, and bring up top-class personnel will be a key for success of development of Vietnam.

The population decrease has started in Japan, and we the supplementation with the decreasing manpower is serious. Excellent Vietnamese Kosen graduates may come to Japan and cooperate to Japanese economy in future. The Gifu Kosen graduates already have been going out to the world, and have done various works for people all over the world. Not only Japan where the labor supply decreasing, but the countries develop more, the top-class personnel shortage becomes more serious. Our Kisokai will cooperate to the activity of Gifu Kosen to bring up top-class personnel.

Here reviews continuous activities of Kisokai we started. We expect your favors toward support for Kisokai activities in the future.

< Activity in 2017 >

- January 5, 2017 e-mail magazine Vol.4 winter issue
- April 27 2017 e-mail magazine Vol.5 spring issue
- May 20, 2017 Kisokai board meeting

Agenda:

- ① The 50th Wakaayukai anniversary event, contents, and status
- ② Kisokai fiscal year 2016 Settlement of accounts and 2017 budget
- July 22, 2017 Kosokai organizer meeting Agenda:
 - ① The 50th Wakaayukai anniversary event
- July 26, 2017, e-mail magazine Vol.6 summer issue
- September 9 2017, the 50th anniversary of Wakaayukai event
- October 25 2017, e-mail magazine Vol.7 autumn issue

Kisokai President
Hiroyuki Nakano

高専祭専門展と研修旅行

機械工学科4年担任 山田実

高専祭専門展と研修旅行は高専5年間の中でも思い出に残る大きなイベントです。今年度の専門展はスターリングエンジンをテーマとして取り組みました。リーダーを中心に夏休み前から企画を決め、夏休み期間中にスターリングエンジンの製作に取りかかりました。しかし、インターンシップなどもあり参加者が少なく計画通りには進みませんでした。三次元CADで設計するのですが、加工のことを考えていなかったり、材料選定や公差に苦労したりと試行錯誤の連続でした。組み立てた後、試運転するも全く動かず、なんとか調整して高専祭直前に間に合わせることができました。完成したスターリングエンジンは広い会場では一目見て通りすぎてしまうものかもしれませんが、学生は誇らしく説明をしていたのが印象的でした。専門展を通してチームワークの大切さともものづくりの大変さ、楽しさを学んだことと思います。

次に研修旅行ですが、平成29年11月7日(火)～10日(金)にかけて3泊4日で九州地方と広島に行きました。九州地方を選んだのは平成28年4月に起こった熊本地震がどのようなになっているかを見に行くためでもありました。1日目は長浜市のヤンマーミュージアムと大阪の造幣局を見学し、神戸港からさんふらわぁに乗船しました。2日目は大分港に着いてから別府地獄めぐり、阿蘇山へ行きました。そこからサントリー九州熊本工場へ行く途中は、地震のため道がまだ封鎖されていたり、波打っていたりと地震の爪痕があちこちに見られました。熊本市内で泊まったホテルもしばらく休業していたそうです。3日目は修復工事中の熊本城に行った後、世界文化遺産に登録されている三池炭鉱宮原坑および太宰府天満宮・門司港に立ち寄りました。そして山口市の湯田温泉に泊まり、最終日は錦帯橋・大和ミュージアムを見学し、広島駅で解散しました。学生にとって印象深い旅行であったと思います。



クラブ紹介 吹奏楽部

機械工学科 加藤 浩三

私が顧問を務める岐阜高専の吹奏楽部は、①本巣地区吹奏楽祭（4月）、②吹奏楽コンクール（8月）、③高専祭のミニコンサート（10月）、④定期演奏会（1月）等を中心に活動しています。部員の中には、中学校から吹奏楽部に所属していた部員のみならず、高専に入学してから楽器演奏を始めた部員もいて、和気あいあいと吹奏楽を楽しんでいます。

吹奏楽では主に金管楽器（トランペット・トロンボーン・ホルン・ユーフォニウム・チューバ）、木管楽器（フルート・クラリネット・オーボエ・サクソ）、打楽器（ティンパニ・バスドラム・木琴・鉄琴）の3つのタイプの楽器群で演奏を行います。吹奏楽の演奏曲のジャンルは幅が広くて、吹奏楽用に作曲された曲のオリジナル曲の他に、オーケストラの曲を吹奏楽に編曲した曲やポップスやジャズ等の曲も演奏します。吹奏楽の楽譜には、指揮者が見るために全楽器パートをまとめたスコア（総譜）と、各楽器の担当者が演奏するためのパート譜があります。各楽器もさらに分担が分かれていて、例えばクラリネットでは、さらに3つのパートに分かれているのが一般的です。こうしてみると、吹奏楽の演奏は著しく分業化されていて、各楽器担当者の責任は重大です。吹奏楽部員の一人一人の責任は重く、極端な言い方をすれば、だれが練習に欠けても吹奏楽の合奏練習が成り立たないということになります。スポーツで言うと、ゲーム中に交代が頻繁に行われるバスケットボール、バレーボール、あるいはサッカーよりは、各プレイヤーの分業・分担の特化という点ではラグビーに類似点が多いように思います。

さて、部員の学科構成という点では、残念ながら機械工学科のOB・OGは少ないかもしれません。吹奏楽部は女子部員が比較的多いので、母集団に女子が少ない機械工学科にあっては当然のこととも言えます。例えば、平成29年度については、40名弱の全部員のうち機械工学科の学生は4名（男子のみ）であり、約1割といった状況です。

吹奏楽部のことを「ブラバン」と呼ばれる方がいます。愛着を込めてそう呼んで頂いているので申し訳ないのですが、顧問としてはこれには少々、異論があります。Brass Bandは、本来は金管楽器のみの合奏形態を言うので、吹奏楽の適切な英語は例えば、Wind Ensembleでしょうか。この機会に区別をご理解頂いて、「吹奏楽部」と呼んで頂けるとありがたいです。

平成31年の1月には岐阜高専吹奏楽部は第52回定期演奏会を本巣市民文化ホールで開催致しますので、是非多くのOBの皆さんにご来場頂きたいと存じます。



岐阜高専吹奏楽部 第51回定期演奏会から 平成30年1月21日 本巣市民文化ホール

若鮎会50周年記念事業に携わって

実行委員 6期 太田哲也

機巢会の幹事から若鮎会の実行委員に推薦され若鮎会の総会に出席したのが始まりでした。2016年3月、建築学科の1期生古川一吉氏が若鮎会会長に就任し、事業計画に50周年記念事業があり、その企画運営を実行委員会に託されました。私は15名（各科より3名）の中の一員でした。

毎月開催される委員会で骨子が決まり、記念式典とパーティーを担当することになりました。記念式典と懇親祝賀パーティーを分けて、より多くの卒業生に来てもらうことを目標に掲げました。記念式典を「長良川国際会議場」懇親祝賀パーティーを隣の「岐阜都ホテル」にし、無料参加と会費制にしました。

無料参加は受付の必要がなく自由に出入りできるのがメリットでした。1200名収容の会場なので受け入れ態勢は万全でした。お陰様で600余名の参加があり、簡単な受付名簿で400名強の卒業生の参加が確認できました。会場のエントランスに高専コーナーで各科の紹介展示をして創設からの歴史を振り返る年表の展示もしました。その後の懇親祝賀パーティーも会費を5000円（食事代一人分）と安く設定し遠方から参加者の負担を軽くしました。成果あってこちらも444名の参加でした。1期生から50期生まで一堂に会する初めての合同同窓会になり、吹奏楽部演奏の校歌斉唱や応援団のアトラクションなど催しも盛りだくさんでした。

スタート段階ではどうなることかと心配しましたが、皆さんのお陰で滞りなく行事がうまくいき、職責が果たせたことに感謝します。企画運営をイベント会社に依頼し、プロのアドバイスを受けながらいろんな要望を取り入れ、盛大な会を開催できたことは本当にうれしく思います。そして反省記事掲載にあたって伝えておきたいことがありましたのでこの記事を書きました。

私は卒業時に就職をせず進学組に入っていましたが、受験に失敗しアルバイトをしている時に現在の仕事（保険業界）に誘われ独立して起業しました。機械工学科卒業の私が異業種で仕事することになり、若鮎会にかかわるまで岐阜高専とは何の関わりもなかったのです。2Mの岩井さんより機巢会の幹事に誘われ若鮎会の会長が同期で寮が同室の古川君でなかったら参画していなかったと思います。

役を押し付けられたと思わず、「5年間同じ釜の飯を食った」仲間たちに喜んでもらえる何かをしたという気持ちが湧いてきました。そしていろんな場所、世界（業界）で活躍している先輩や後輩を知って、「自分ではなかった」と思えたことが一番の収穫でした。現役の学生や先生、事務の方と交流出来たのも良かったですね。現在の学校の状況や学生の気持ちも聞くことが出来、今も昔もそんなに変わっていないことを知りました。

15歳から20歳まで過ごした高専生活が、私の人生にとって掛け替えのない期間であったと再認識をしました。同窓会活動を通して素晴らしい人たちに出会えてありがとうございました。



当日の式典&懇親会のスタッフの集合写真

学年合同同窓会を振り返って

31 期機械工学科卒業生 堀口英樹

前回本誌にて掲載いただきました、学年合同同窓会を先月無事に終えることが出来たこと大変嬉しく思って報告させていただきます。今回開催に当たり、ご支援いただきました機巢会並びに若鮎会の皆様方には大変感謝いたしております。若鮎会古川会長、土屋次期会長様におかれましては、同窓会当日会場にてご祝辞ご声援をいただき、また大変場を盛り上げてくださいましたこと合わせて感謝いたします。

同窓会当日は大変な盛り上がりでした。各学科別の同窓会は個々に以前数回行われていたみたいですが、私ども機械工学科はなんと今回が初同窓会ということもあり、20年ぶりの各々の変わらぬ様な変わりようぶりに皆が驚きつつも大変楽しい時を過ごせたことだと思います。私どもの学年は当時学科ごとの垣根

を越え、互いに交友が広がった為に今回のような合同同窓会を開催することが出来ましたし、またそれを望んでいた同窓生を多かったとのことでした。自身の学科のみではなく学年全体ですと、数年後のキャリアやカテゴリ属性に大きな違いがあることが分かり、皆がお互いに良い意味での刺激を受け、明日への糧となったと思います。四十路を迎え、先の見通しが難しいこの時勢で何か心の支えになるものを創れたことと信じております。最後に機巢会の皆様方へは、私体験者として、是非学年もしくは学科を越えた同窓会をお勧めさせていただきます！子供の時に友達が多い方がいいと教わりましたが、大人になっても多い方がいいと変わらず思えるような素敵な時間を過せることと思います。



若鮎会公開講座に参加して

副会長 桑原 喜代和 （1期生）

昨年の秋から若鮎会50周年記念の公開講座が開催され、既に3回目までが終了しています。2回目の11月18日は機械工学科1期生の花村和男さんの講演が行われました。2回目の公開講座の運営に参画すると共に花村さんの講演を聴いた感想を報告します。

花村さんはアイシン精機にて一貫して品質管理に従事され、SQCを推進されてきました。退社後も多くのトヨタ系の企業の品質管理を指導するだけでなく、全国のさまざまな企業を支援しています。今回の講座では品質管理技法の解説だけではなく、彼の経験談や人生観を聞くことができました。以前から彼が忙しくしていることは聞いていましたが、その業務内容についてはあまり知らないまま講師に紹介したこともあり、また、なかなか受講の申し込みが集まらず、当日まではいろいろと心配していました。



品質管理については、死亡診断書ではなく、再発防止が重要であることは意識していましたが、現在、花村さんが行っていることは未然防止を目標にしているとのこと。その手法の詳細についてはあまり理解できませんでしたが、一般的なQC活動の先にこのようなSQCの世界があることを聞き、私は感動しました。内容が難しくて一般の聴講者向けでないとか、ポスターの写真が良くないとか言う人もあったようですが、アンケートには「速いテンポで退屈しなくて良かった。」、「専門でない私が聞いていても興味が出た話であった。」との回答があり、多くの人はその難しさに挑んでいる彼の姿に感ずるものがあったようです。



後日、出席された橋浦先生から「一つのことを丁寧に、根気よく続けると、大きな成果を挙げることができるお手本のようでした。」とのコメントをいただきました。講座が終わり、講師と橋浦先生、同級生、司会者や関係者と共に駅前への玉宮町へ繰り出し、焼き鳥屋で飲んだ生ビールの味は格別でした。



昨年、花村さんと我ら同級生は古希・70歳を迎えました。公開講座の講師には40代、50代の働き盛りのOBが多い中、60代を超え、頑張っている70歳がいることを見せてくれました。彼は今年の年賀状の中でまだまだ続けるといっています。定年後の年金生活の中にあっても社会のお役に立てることはできるかと思います。私ももう少し中核人材育成の活動を続けようと考えています。

若鮎会活動は50周年を契機にして同窓会活動の活性化を進めようとしており、我々の機集会の活動も活発にして行きたいと思います。このためにも公開講座への積極的な参加をお願いします。来年度以降の講師に機集会会員各位からの多くの自薦他薦を期待しています。

企業家卒業生インタビュー

(株) 森製作所 代表取締役 森栄三 (15 期生)

岐阜高専卒業生の中には、宿命的に家業を継いで企業経営者となった方も何人かおられます。第 3 回目の今回は、そういう道を歩んでいる、羽島の自動車部品製造業、(株) 森製作所 代表取締役の森栄三さんです。

Q1. まずは、会社経営をするまでの経歴、きっかけをお教えてください。

岐阜高専卒業後、工作機械メーカーの(株) オークマに就職しました。オークマでは、工作機械を簡単に操作するための自動プログラミングシステムの開発や、産業機械である電子基板用チップマウンターの開発をやっていました。10 年くらい開発業務に取り組んでいたところ、自動車部品製造業を営んでいた実家の父から戻ってきて助けてくれないかという誘いがあり、オークマを退職するに至ったという次第です。30 歳のときでした。



森栄三社長

Q2. 事業承継して感じたことなどをお聞かせください。

正直言って社長になって良かったと思ったことはあまりないですね。苦労ばかりかも知れない。機械や物を相手にしているより人を相手にする方が難しい、人を使うことは大変だと感じました。社員に定着してもらうために当社では家族的なつきあいのできる企業を目指しています。同じ釜の飯を食う仲間とでもいいでしょうか、定年を越えるときには、社員のご家族（奥様）と一緒に招いて食事会をやったりもしてます。

Q3. 現在、会社の課題は何ですか、あるいは何が必要ですか？

自動車部品を製造する当社にとって、品質問題が一番です。外観部品ならともかく機能部品なのに目に見えない打痕を指摘されます。寸法不良でもないのには思いますが、顧客のハードルは高いです。

それと、どこも同じ課題だとは思いますが、会社の将来を背負ってくれる人材が欲しいです。偶然、長男が岐阜高専の電子制御工学科に進学しましたが、自分の好きなことをやってくれば良いと思ってます。（後継者は欲しいのですが）森製作所を継いでくれとは言ってません。

Q4. 高専時代の学生生活で役に立ったことは？

高専では機構学研究室（通称：杉本研究室）に所属しておりました。我々15 期生は、当時の古屋校長の肝煎りで、第九代目の玉屋庄兵衛先生から茶運人形（からくり人形）の製作を学ぶ機会がありましたが、ここの研究室ではそれを引き継いで茶運人形の機構の研究をやりました。そのおかげで機構の基本が分かり良かったと思っています。

Q5. 後輩、現役学生などに一言お願いします。

是非、自分のやりたいことを見つけてください。

Q6. 経営を退いたら何をやりたいですか？

全く新しいコンセプトの自動車を作りたいですね。夢みたいな話ですが、例えば燃料補給が不要とか。（笑）

(インタビューを終えて)

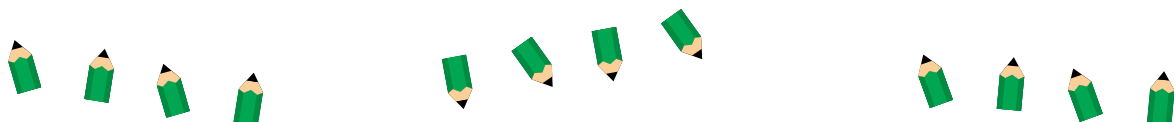
取材にあたり、工場見学をさせてもらった。工場に入るとまずプーンと懐かしい油の匂いがしたのと、建物ののこぎり屋根形状から典型的な町工場の特徴を感じた。下町ロケットや半沢直樹の現場ロケでも見えそうな.....というような感傷には浸ってられない。明日からまた忙しくひたすら部品製造の毎日だろうと思う。

同級生である社長の森栄三君とは学生時代に変な縁があった。一緒に体育大会をサボって隣の本巣高校の文化祭を見学しようということになった。本巣高校の玄関で見学に来たと告げると、生徒指導の教諭らしき人物が出てきて、何故か急に腕をつかまれた。そして「北方警察署へ来い」と怒鳴られて困ったとき、森君が振り払ってくれたことを思い出した。感謝！感謝！（記：中尾）



森製作所の主要設備である NC 旋盤

(会社情報) 株式会社 森製作所 〒501-6311 羽島市上中町長間2319番地



編集後記

毎日寒い日が続きます。今年は降雪が多いのでなれない雪道でのスリップ事故や転倒に注意してください。今回の8号は集まって会議をしなくて作成することが出来ました。編集員の一人一人が役割を果たして完成出来たのは、非常に喜ばしいことと思います。

編集委員

- | | |
|----------|--|
| 6M 太田哲也 | 毎週1回ゴルフスクールに通い基本から教えてもらっています。今までの私のゴルフは何だったんだろう？と思えるくらい頭が切り替わりました。あとはベストスコアを目指すのみ！ |
| 8M 犬飼宏好 | 寒い毎日。頭の中が凍り付いたみたいで、原稿の内容がなかなか理解できず、何度も読み返す始末。かと言って、暖かい部屋で読めば、ぼーっとしてダメでしょうね。やれやれ～ |
| 15M 中尾賢治 | 私の冬の楽しみ「濁り酒と抹茶」が美味しい季節です。皆様、飲みすぎにはご注意ください！ |
| 24M 山田 実 | 久しぶりに学校全体の入試倍率が2倍を超えそうです。また機械工学科への求人数もここ数年では最高になりそうな勢いです。 |
| 33M 伊藤友裕 | 私の属している業界は近年最大の正念場を迎えつつあり、その中において手腕を発揮している高専卒業生をたくさん見かけます。がんばれ高専！ |

発行日／2018年2月5日

責任者／中野廣幸

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343 FAX 058-320-1349

<http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html>